



[祈りと信仰のまち京都]

歴 146 (R02)

知恩院の西にある得浄明院は、伏見宮邦家親王の第三王女で、明治天皇の叔母にあたる誓圓尼により開山、明治27年（1894）信州善光寺大本願の京都別院の尼寺として建立されました。

この地は、かつての知恩院入道親王坐住「華頂殿」の一部で、古門前通に面して総門があり、その参道の奥に寺門を構え、敷地の北側に本堂と書院、中央部分に御殿、東側は広大な庭園となっています。寺門の北側に、白天龍王社と手水舎が設けられています。

明治期に建てられた本堂は、入母屋造り、棧瓦葺き、妻入りの地上1階地下1階建てで、破風板は拝み部分と裾部に飾り金物と葵の御紋が飾られています。信州善光寺参りが困難な関西においても戒壇廻りができるよう、善光寺に倣い、内陣の東側から降りて本堂の外周部を廻れる造りとなっています。

白天龍王社は、切妻造り、銅板葺き、平入り平屋建てで、芸事や商売の神様として信仰を集めています。白天龍王社の例祭として、毎年5月に行われている包勝一條流奉納式では、平安時代中期から続く流派「包勝一條流」による式包丁が奉納されます。食材に触れず、包丁とまな板のみでさばく伝統の技は厳かです。

この寺院は、通常非公開ですが、例祭とあわせ一初（いちはつ）と呼ばれる菖蒲が咲く初夏に特別公開されます。



本堂内部



寺門



〒605-0062 京都市東山区林下町459

電話番号 075-561-3767

アクセス 地下鉄東西線「東山駅」徒歩5分

ホームページ <http://www.tokujomyoin.or.jp/>